



## 私の知らないところで 重信中学校2年生 阿多 聡子

毎日のように、私の知らないところで悲惨な事件が起こっています。未成年者が事件の加害者となるものも少なくありません。しかし、テレビに映る事件の数々は、画面の向こうの出来事で、私には関係の無い、遠い世界のことのように入ります。そんなニュースでいつも気になる言葉があります。加害者の知人たちが口をそろえて言う、「あの人は優しい人だっただ。そんなことをする人には思えなかった」という言葉です。インタビュを聞く度に、「優しい人」なら事件など起こさないのではないかと悲惨な事件と正反対の「優しい」という加害者の人物像に、私はいつも違和感を覚えていました。そんなときに、ある本と出会いました。祖母が読んでいた「ケーキの切れない非行少年たち」という本です。この本は、非行に走る少年たちが抱えている共通の問題を明らかにし、彼らの社会性を育むためにはどうするかを書かれています。その中に次のようなことが書かれています。「気が弱く流されやすくて何でも悪友の言うことを聞いてしまう、ある意味、やさし

い子」ほど、流されて非行に走る傾向がありました」と。周りから見ると、何でも受け止めてくれる優しい人は、本当は流されやすく、非行に走りやすいのだそうです。それを読んだとき、私の周りにはいる友達の顔が次々に浮かんできました。私のワガママをいつも笑顔で認めてくれる人、少し無茶なお願いで「いいよ」と笑って引き受けてくれる人……。今、私の周りにはいる友達は、優しい人ばかりです。そう思うと、「非行」や「犯罪」という言葉が決して他人事ではないのではないかと思ってきました。事件は今起こっていないだけで、私の近くでも起こってしまいう可能性があるのではないでしょうか。では、起こらないようにするために私たちにはどんなことができるでしょうか。私は原因の一つとして、自分の本当の気持ちを表現できていないのではないかと考えました。私は今は今、思春期と呼ばれる成長過程にあります。反抗期だという友達もいます。家族や友達、先生など周りにいる人に対して素直になれず、強い自分を装ってしまったり、嫌なことや困ったことがあっても平気

なふりをしたりしてしまいがちです。そうすると、ストレスが溜まり、イライラや不安からなんとなく抜け出そうとして、悪い行いで手を染めてしまうのではないのでしょうか。心が不安定な今だからこそ、自分の思いを素直に表現し、受け止め合える関係づくりが大切だと考えます。私は歌やダンス、演劇など、自分で何かを表現することが好きです。所属している演劇部では、自分以外の誰かを演じるときに、台本に書かれている動きやセリフから、こういう性格なのではないか、今こんな気持ちなのではないかと、見えにくい相手を想像しながら役作りをします。なにより嬉しなのは、舞台の上で自分が考えた人物を演じたときに、周りの人に「よかったよ」「とても素敵だった」と認めてもらえることです。自分の思いが相手に伝わり、受け止め、認めてもらえることはとても心が満たされることにはありません。私たちの周りには様々な人がいます。そして人の数だけ考え方や価値観も多様にあります。私が知らないところで、辛い思いをしている人や、苦しんでいる人もいます。そ

んな人に、「大変だったね」「苦しかったね」と寄り添い、受け止める関係づくりをしていくために、私は相手の立場に立つて物事を考えることを大切にしたいです。「あの人は優しい」「この人は真面目だ」といった先入観や思い込みで人を判断せず、もつと様々な視点で物事を捉えていきたいと思えます。もう一つは、社会の出来事に興味・関心を持つことです。私のように、テレビや新聞で報道されるのが身近に感じられない人は多くいます。「自分の知らないところで起きていることだ」「自分には関係ない」ではなく、同じ社会に生きる人として、自分の身近に起きたらどうするべきか、私たちの地域に問題はないかと考えていかなければならないと思います。自分にできることは小さなことかもしれませんが。しかし、私はこれから、周りにいてくれる人たちのために、私が生きる社会の明るい未来のために、自分のできることを探し、積極的に行っていきたく思います。一人一人の想いがつながり、私の知らないところでも、小さな笑顔の花が咲くように……。



スイッチとうおん特別版

## 中学生の言葉

7月25日、第7回「社会を明るくする運動」東温市大会が4年ぶりに行われました。社会を明るくする運動は犯罪や非行の防止、更生について理解を深め、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。大会で披露された川内・重信中学校の代表生徒の意見発表を紹介します。

### ルールを守ること 川内中学校2年生 合田 咲愛

ルールというのは誰もが守るべき規則です。しかし、これまでルールを守れていないなどと思う場面を何度か見たことがあります。

私は自転車で通学していましたが、登下校中、自転車の並走を見たことがあります。学校でもしてはいけないと言われているし、歩いている人の妨害にもなると思うので、明らかにすべき行為ではないと思います。実際、友達と話しながら帰りたいという気持ちがあるからなくはないですが、周りの人に迷惑をかけるかもしれないし、大きな事故につながる危険性のある行為だと考えられます。また、横断歩道を渡る時に、自転車から降りずに進んでいるところも見たことがあります。自転車から降りて渡るのには面倒で、急いでいるとついついやってしまうのかもしれない。しかし、急に自動車が増えて、突っ込まれてしまう可能性もあります。ちょっとした気の緩みで大きな事故が起こってしまう点がすごく怖いと思います。自転車は身近な乗り物ですが、ルール

を守らないと、いつか悲しい思いをすることがあるかもしれません。また、自転車に乗っている大人もよく見かけます。前方に気がつかずぶつかりそうになり、ヒヤッとしたことも何度もあります。行為自体が大変危険ですが、そんな場面を見た子どもたちが真似するかもしれないということも考えられます。

これまでルールを守るということを述べてきましたが、止めようと思つたら止めることもできたのに、私は止めることができませんでした。自分がルールを守っていないわけではなく、他人が守っていないだけだから関係ないという考え方をしてしまったかです。しかし、「自分のことではないから」という考え方で



は、社会は変わっていかないとはいけません。私自身がだめなことではだめだと言えぬ勇気を持ちたいです。そのために、ルールがあるという意味やルールを守らなかつたら起こりうる危険性を私自身がもっと考えたいと思います。

ルールについて一人一人が守るべき理由を考えることが、今必要なのではないでしょうか。私は犯罪や非行をなくしたいと思つていますが、全てなくすることは無理かもしれませんが、人はみんな「ちよつとくらいいならいいだろう」「このくらいなら大丈夫」と考えてしまからです。実際私も、横断歩道で自転車に乗りながら、「このまま行つてもいいかな」と考えてしまつたこともあります。しかし、ルールの意味を理解することによって、考え方が変わるかもしれません。私はこれからルールが守られる社会にするために、ルールを守ることの意味を考えていきたいと思います。そして、それを行動で示せる人になりたいです。お互いの幸せにつながることを伝えていきたいです。